

現地理解教育充実に向けた現地行政機関等との連携について

前グアナファト日本人学校 校長

愛知県安城市立明祥中学校 校長 今井厚志

キーワード 在外教育施設、メキシコ、現地理解教育

赴任校の概要 (2025年4月1日現在)

グアナファト日本人学校

Instituto Educativo Japones de Guanajuato

URL : <https://gtojschool.jimdofree.com>

1 はじめに

本校は、2019年（令和元年）4月に開校した、新しい日本人学校である。私が赴任した2022年4月は、新型コロナウイルスの影響の残る開校4年目だった。開校1年目は学校の環境整備に注力され、2・3年目は新型コロナウイルスの影響が大きく、日本の学校同様に十分な教育活動を行うことが難しかった。メキシコの現地校も休校をよぎなくされる中、本校は感染対策を徹底的に行い、なんとか現地校より学校教育活動を早めに再開したものの、開かれた教育活動は十分でなかった。

そんな中、2022年度は、本校理事会・運営委員会、在レオン日本国総領事館からご支援いただき、イラプアト市当局とのかかわりをもつ機会を得た。そのつながりをきっかけとして、この3年間、さまざまな教育活動を積極的に展開したことで、子どもたちのメキシコでの学びがより深く、感動的なものになった。ここでは、その取り組みの一部を紹介する。

2 イラプアト市行政機関とのつながりづくり

(1) きっかけ—ベティ・ヤマモト氏を偲ぶ桜の植樹—

2022年5月、日本とメキシコをつなぐ架け橋の役を担われ、本校設立にも大変なご尽力をいただいた、グアナファト州国際コミュニティ局長のベティ・ヤマモト氏が新型コロナウイルス感染によりご逝去されたことを



を偲び、校庭に桜の植樹を行った。ベティ氏は、日本国より旭日小綬章を受賞された方だった。

その式典に在レオン日本国総領事館、本校理事会・運営委員会の呼びかけで、ロレナイラプアト市長、ヨイス教育長官はじめ、メキシコの現地行政関係者が多数来校された。その時の会合では、主として日本人コミュニティとイラプアト市の交流を深めることや治安維持等について協議がなされた。現地行政当局の方々は、本校や日本の教育に強い関心をもっていただいていることがわかり、ここから日本人学校とイラプアト市当局との新たな関係づくりが始まった。

(2) イラプアト市ジョイス教育局長との懇談

上記協議の後、イラプアト市のジョイス教育局長は特に本校の学校教育に関心をもっていただいた。そこで、今後も市当局と本校のつながりを深める具体的な取り組みを進めていきたいと、双方の意向一致を確認できた。中でもジョイス教育局長の思いは、メキシコをよく理解する学びをしてほしいということと、メキシコ現地校と本校の児童生徒交流のようであった。

その後さまざまな機会でジョイス教育局長と面会する機会があり、コミュニケーションを続けることでその後具体的な取り組みをサポートいただくことになった。

3 イラプアト市当局とかかわった教育実践

(1) イラプアト動物園（小学部1～4年・2022年度）

この企画がジョイス教育局長との具体的なかかわりの始まりとなった。あらかじめ動物園に校外学習に行く旨をイラプアト市当局に伝えておいたところ、ジョイス教育局長が動物園を訪れ子どもたちを歓迎してくださった。その折、市の施設を今後も積極的に利用してほしいとお話をいただき、このことが今後のつながりをさらに強くすることになった。

(2) DIFチャリティイベント（教職員・2022～2024年度）

3年間、DIFチャリティイベントに参加した。DIFとは、(Desarrollo Integral de la Familia：公的な社会福祉機関)という組織で、メキシコは各市に置かれるもので、体の不自由な方、経済的支援を必要とする方等の力になっている。

本校はメキシコで学校運営をするうえで、このかかりわりは必須となっており、この活動基金全額を寄付することで貢献している。寄付活動は教職員およびその家族、児童生徒保護者有志で行っている。

また、日本ブースはカマラ（日墨商工会議所）のみなさんと協働で行っており、企業の方と学校のつながりも強くできるという面でよい取り組みになっている。

2024年度は、家庭から募った折り紙作品やおしゃれな小物などの販売、浴衣の試着・撮影、メキシコ人の氏名を漢字で書いた用紙をプレゼント、けん玉体験の4つを行った。日本ブースは毎年盛況で、たくさんのメキシコ人たちでにぎわった。その結果、1日で16,000ペソ（約120,000円）を超える金額の寄付をすることができた。

さらに、イラプアト市長のロレナ氏、DIF会長のバレリア氏にも日本ブースに来ていただき、浴衣の試着を体験していただいた。寄付額についても日本は大きく貢献していることから、市長もDIF会長も本校のことをよく気にかけていただくようになった。こういった取り組みを通して市当局と良好な関係を積み上げることが本校の教育活動をより豊かにすると考える。

(3) ピニャータコンテスト（小学部低学年・2022～2024年度）

クリスマスシーズンになると、子どもたちがプレゼントの入った人形（ピニャータ）を壊し、お菓子などを受け取るイベントが行われる。そのピニャータのコンテストへの応募を市当局が本校に打診いただいた。2022年から毎年小学部低学年が作成し、応募している。



日本ブースで浴衣の試着をする市長・DIF会長

作成にあたっては、メキシコ人のピニャータ講師を招き、小麦粉糊を使い、伝統的な方法で作業をしていく。デザインについては、伝統にとらわれず、自由な発想で作ることとした。子どもたちは、毎年楽しい作品を仕上げている。

12月にこの作品をピニャータコンテストに応募し、表彰式にてロレナ市長が各応募校にねぎらいのことばをいただきとともに本校の協力についても感謝の言葉を言ってくださる。本取り組みを通して、子どもたちがメキシコ文化を体感する大切な活動の1つとなっている。

(4) 歴史博物館ガイドツアー (小学部6年・2022~2024年度)

これは小学部6年生社会科の授業の発展として、イラプアト市当局から紹介いただいた企画である。2022年度から毎年6年生がイラプアト市セントロを訪れ、市から派遣されたガイドによる歴史博物館めぐりを行っている。

メキシコの独立運動の指導者、ミゲル・イダルゴに関する建物内外の壁画の説明やイラプアト市の歴史などを紹介いただき、現地を学ぶ貴重な機会となっている。スペイン語を日本語に通訳していただき、その話に聞き入りながら毎年熱心にメモをとる姿が見られる。また、例年そのツアーの中で、イラプアト市長室にも特別に入らせていただいている。市長のご厚意によるもので、こちらも子どもたちにとってたいへんよい経験となった。

(5) イラプアト市制476周年記念イベント (有志・2022年度)

2022年10月ごろ、イラプアト市当局から市制476周年を記念して、市特産物のイチゴのモニュメント作成を本校が依頼された。他にもメキシコ現地校が多く依頼され、それぞれの学校関係者が思い思いのイチゴをデザインした。

本校は、美術専門の教員を中心に、大きな構成を考えた後、子どもたちや保護者・教員の有志協力者が集まり、イチゴの色付けを行った。

本校のモニュメントはさまざまなイベントの折に移動展示され、多くの方の目を引いた。メキシコでは日本のデザインや文字に関心をもつ人が多く、記念撮影をする様子がよく見られた。学校のPRにもなったという意味からも、市制記念に参加する機会をいただいたことに感謝している。



できたよピニャータ!



(6) 下水処理場 Japami 見学 (小学部4年・2023~2024年度)

日本の小学校4年生社会で見学するように、本校でも社会見学をさせたいと考え、イラプアト市当局を通じて下水処理場の見学を依頼したところ、快諾をいただいた。ガイドの方を用意していただき、子どもたちは通訳を通じて現場を観察、詳しく話をうかがうことができた。この地は地下水から水を得ており、下水処理場しかない。生活排水がこの場所に集まり、微生物の力によってきれいにされていくしくみや様子を知り、子どもたちは高い関心をもって学んでいた。学習の事後にお礼状を作り、Japamiおよび市当局に感謝を伝えた。

(7) 愛と友情の日墨交流会 (全校・2022~2024年度)

2021年度までは年に1回、本校児童生徒が現地校に出向き、交流会を行うだけであったが、2023年度に、

イラプアト市内の私立現地校5校から代表が10名ずつ、計50名が来校する交流会が行われることとなった。こちらもジョイス教育局長の呼びかけによって実現された。毎年ジョイス教育局長が交流会の様子を見に来てくださっている。

はじめは体育館で、それぞれの学校の出し物（ダンスや劇など）の発表が行われた。本校は毎年ソーラン節を披露している。メキシコ現地校は伝統的な民族音楽に乗せて大人顔負けの発表があり、大いに盛り上がった。

第2部として、昼食を校庭でいっしょに食べるとともに、メキシコのお菓子を味わった。日本人学校からは、豚汁やみたらし団子などを提供し、互いの食文化を交流することもできた。最後にサッカーや鬼ごっこなど、運動の交流を行った。日ごろ学んだスペイン語を話す機会にもなり、実りある体験となっている。

(8) 消防署・イチゴ農園見学（小学部3・4年・2024年度）

小学部3年生の社会見学の開拓に向けて、イラプアト市消防署に依頼したところ、快諾をいただいた。また同日、イラプアト市特産のイチゴの学習として、イチゴ農園への見学ができるいかを市当局にうかがい、農園を紹介していただいた。今回は初めてということで、小学部3・4年生合同で2か所を見学することとした。

消防署は2チームに分かれて学年ごとに説明を聞いた。消防服の紹介やヘルメットなどの着用体験、仮眠室見学、殉職された消防士をたたえる展示見学、さらには消防車試乗体験など、たいへんていねいでわかりやすい対応をいただき、子どもたちは最後まで興味をもって学ぶことができた。

午後は、市当局から紹介いただいたイチゴ農園を訪問した。学校近くの工業地帯の横に広大な農園があり、イチゴだけでなく、トウモロコシやマリーゴールドなど、さまざまな野菜・植物が育てられている場所である。

メキシコは日本より気温が高いため、育てるイチゴの品種や収穫の時期が異なっている。そういう説明を元グアナファト大学教授にしていただいた。また、イチゴの花のしくみや昆虫を利用した無農薬栽培についてお話ししていただいた。この農園は無農薬のため、イチゴをその場でいただくことができた。

小学部3年生はこの学びをもとにさらに学習を進め、学習発表会でイチゴの魅力を紹介するプレゼンを行った。点を線にする取り組みで現地理解を深めることができた。

4 その他の関係機関とかかわる取り組み

イラプアト市当局だけでなく、グアナファト州政府・州警察・在レオン日本国総領事館・グアナファト大学等との連携により実現した取り組みを以下に紹介する。

(1) グアナファト州議会見学（中学部・2023年度）

グアナファト州政府および総領事館のご紹介により、グアナファト州議会の施設および、議会答弁の様子を見学する機会をいただいた。

議会の直前までマルケス議長が本校中学生を迎えていただき、議会について説明いただいた。中学生の質問にもていねいにお答えいただいた。議会のようすも見学したが、スペイン語だったため残念ながら十分理解できないところはあったが、日本もメキシコも同じような形で政治が行われていることを知ることができた。



(2) グアナファト大学見学（小学部低学年・2023年度）

本校理事の杉田氏は、元グアナファト大学教授であり、本校の隣に位置するグアナファト大学と本校の連携を日々勧めていた。そこで、本校の教育にメリットのある内容を校内で検討し、小学低学年が生活科の取り組みとして、訪問することとした。

グアナファト大学は農学部を有しており、馬や牛の飼育やトウモロコシ、チレ（メキシコ唐辛子）などの植物の栽培も広く行っている。そこで、植物の見学をさせていただくこととした。

子どもたちは農場にいる馬や牛の観察、エサやりの体験をさせていただいた。大学の先生の言葉を事務職員が通訳し、説明をうかがった。その後動物のスケッチを行うこともできた。

また、植物の見学では、ビニールハウスでチレをどのように育てているかをうかがい、種植え体験を行った。帰りにチレ（唐辛子）の苗をいただき、学校に戻って育てる機会をいただくことができた。学校では味わえない経験をすることができた。

5 おわりに

新型コロナウイルスの影響がようやく解消され、特色ある本校の取り組みとして、さまざま挑戦する機会をいただいた。一つひとつの取り組みはまだ粗削りであるが、3年間の経験をもとに、さらなる現地理解教育の充実に努めていただきたい。今後も学校をキーステーションとして、現地行政当局、在レオン日本国総領事館、理事会、学校運営委員会等と連携を密にし、本校ならではの取り組みを開拓してほしい。

一方で、近年本校卒業後の進学先にメキシコ現地校を希望する子どもたちが増えている。今後は多様な進学のニーズに応じた支援の充実が急務である。こちらも現地の情報収集と関係機関との連携が重要となることから、これまでのつながりを大切にしつつ、現地に根差す日本人学校として、さらなる発展をしていただきたい。

最後に、これまでの取り組みにご協力・ご支援いただいた本校職員、保護者のみなさん、理事会、運営委員会をはじめすべての皆様に、そして、この地に派遣をしていただいた文部科学省、愛知県教育委員会のみなさんに感謝申し上げたい。